

目次

功労賞を受賞して.....	公益財団法人 八戸市総合健診センター	堰合 淳子	1-
功労賞を受賞して.....	青森労災病院	河村 義雄	2-
功労賞を受賞して.....	弘前大学大学院保健学研究科 生体検査科学領域		
	弘前大学医学部保健学科 検査技術科学専攻	吉岡 治彦	4-
功労賞を受賞して.....	八戸市医師会臨床検査センター	竹洞 ヒロ子	2-
功労賞を受賞して.....	むつ総合病院	濱谷 修	3-
功労賞を受賞して.....	つがる西北五広域連合 鯉ヶ沢病院	番場 隆彦	3-
奨励賞を受賞して.....	八戸赤十字病院	阿部 紀恵	4-
奨励賞を受賞して.....	十和田市立中央病院	前山 宏太	4-
伊藤機一賞を受賞して.....	弘前大学医学部附属病院	石山 雄大	5-
第48回青森県医学検査学会を終えて.....			5-
令和4年度 青臨技 第1回 臨床生理部門研修会報告.....			7-
令和4年度 青臨技 第2回 臨床生理部門研修会報告.....			7-
令和4年度 青臨技 輸血細胞治療部門研修会報告.....			9-
令和4年度第2回理事会議事録.....			12-
令和4年度第3回理事会議事録.....			12-
令和4年度第4回理事会議事録.....			12-
令和4年度第5回理事会議事録.....			12-

令和3年度受賞者より

功労賞を受賞して

公益財団法人 八戸市総合健診センター 堰合 淳子

この度は、青森県臨床検査技師会功労賞を受賞させていただき、誠にありがとうございました。今回このような賞を受賞し本当にびっくりしています。

私は平成20、21年度に青森県臨床検査技師会の理事（庶務）を務めさせていただき、理事会の議事録や青臨技会報作成のお手伝いをさせていただきました。当時のことを思い出すと慣れない仕事で責務を果たしていたのだらうかと不安になります。当時の技師会の動きとしては公益社団法人か一般社団法人どちらへ移行すべきか検討していた時期でした。一般法人与公益法人の違いについて教えていただきとても勉強になった記憶があります。理事会は年に5回から6回青森市で開催されていましたので、八戸から電車に乗り会議に参加していたことが大変でもあり楽しくもありました。2年間という短い期間ではありましたが県の技師会の仕事に携わられたことが誇りでもあります。これもひとえに役員および会員皆様のご協力があったの事と思っております。

最後になりますが、青森県臨床検査技師会の益々のご発展と、会員の皆様のご活躍、ご多幸を祈念し功労賞受賞の御礼とさせていただきます。この度は、誠にありがとうございました。

功労賞を受賞して

青森労災病院 河村 義雄

この度は、功労賞の荣誉に与り、ご推挙いただきました青森県臨床検査技師会はじめ、三八支部の皆様、当院検査部の皆様のご厚情に心よりお礼申し上げます。

昭和 59 年より平成 27 年春まで青森労災病院に勤務してきましたが、当機構人事異動により平成 27 年より秋田労災病院へ異動となりました。その後北海道中央労災病院へ異動し 5 年の異動期間を終え、令和 2 年 4 月青森労災病院へ戻ってきました。5 年ぶりに地元へ戻ってきて驚いたこと、たまたま見た青臨技会誌の名簿に知らぬ会員の名前ばかりだったこと・・・愕然としました。技師会活動等では県班長（現在の県部門長）を拝命していた時、東北地区研修会の発案、企画、開催に際し、各県の班長さん達と一緒に活動したことで多くの知識や経験を積むことができたことを思い出します。まさに、この時の経験が現在の自分の形成に繋がっていると思っています。私の残された時間もわずかですが少しでも今までの経験を伝えていければと思っています。末筆ではありますがこれまでご指導ご鞭撻いただきました先輩方、お力添えを頂きました技師会員の皆様、職場の皆様深く感謝いたします。ありがとうございました。

功労賞を受賞して

弘前大学大学院保健学研究科 生体検査科学領域
弘前大学医学部保健学科 検査技術科学専攻
吉岡 治彦

この度は、(一社)青森県臨床検査技師会功労賞を賜り、誠にありがとうございました。大変光栄に思うと同時に、身の引き締まる思いです。何より、これまで共に病理・細胞診検査の道を共に歩んでいただきました皆様、ご指導いただきました先生方、共同研究者の皆様にご心より感謝申し上げます。

今回、受賞の対象となったのは、青森市民病院から弘前大学に異動してから理事の任に付き、青森県臨床検査技師会と弘前大学医学部保健学科検査技術科学専攻と青森県臨床細胞学会の架け橋の役を務めさせていただいたこと、と思います。昨今、良質かつ適切な医療を効率に提供する体制の確保を推進するため、検査技師と取り巻く法改正がなされタスクシフト、臨地実習指導者講習会等でより、学生は青臨技の皆様にお世話になることが多々増えてまいりました。引き続きどうぞ、よろしくお願い申し上げます。

最後に、青森県臨床検査技師会の益々の発展と会員皆様のご活躍、ご多幸を祈念して、功労賞受賞の御礼の言葉とさせていただきます。誠にありがとうございました。

功労賞を受賞して

八戸市医師会臨床検査センター 竹洞 ヒロ子

この度は、青臨技功労賞をいただきありがとうございました。受賞にあたり会長をはじめ役員の皆様、青臨技会員の皆様にご心よりお礼申し上げます。

私は平成 22、23 年度の 2 年間だけでしたが理事（会計）を担当させていただきました。思えば 10 年以上前のことです。当時上司から青臨技の会計を依頼され、エクセルも何もできない私が大丈夫なのか…？と不安な気持ちで引き受けました。ルーチンワークよりもほぼ会務のことで頭がいっぱいの日々。分からないことだらけで前任者の方に電話をかけまくります。職場では、「ルーチンはやるから技師会の仕事してていいよ」と優しい言葉をかけてもらい、お金の封筒詰めも手伝ってもらい、みんなの理解と協力を得てこなすことができました。

た。平成 23 年の総会前日に交通費等の準備をしている最中にあの東日本大震災が発生して、明日の総会は？情報交換会は？等々焦ったことを今でも鮮明に覚えています。会計を担当して技師会会員の会費はもちろん、メーカーの協賛、各支部の協力があって青臨技が成り立っている事を実感しました。また、理事会や学会などの行事を通していろいろな方々と出会い、お話をする機会を得たことがとても貴重な良い経験になったとつくづく感じております。任期中は忙しくはありましたがとても充実していたなあ、と懐かしい気持ちです。ありがとうございました。

功劳賞を受賞して

むつ総合病院 濱谷 修

この度、青森県臨床検査技師会功劳賞を頂きました。受賞にあたり、会長はじめ青臨技会員の皆様には心より厚く御礼申し上げます。元々賞というものに縁がなく、まして青臨技の末席に座っていただけの私がこのように賞いただくことに違和感しかなく大変恐縮しております。

振り返ってみますと東京で就職した当時、まったくと言ってよいほど技師会活動に興味がなくほぼ病理・細胞診の専門部会や研修会に参加するのみでした。ところが U ターンして戻ってみると青臨技は盛況で入会率も高く、献身的に熱く技師会活動されている先輩会員の姿を見て大変感動したことを覚えております。振り返って自分自身はというと、のらりくらりと大した貢献も出来なかったなと思います。ただ色々な人と巡り合い刺激を頂きながら臨床検査技師として過ごせた事は幸せなことだと思います。また、学生時代の同級生と一緒に受賞できたことにも感謝しております。

最後になりますが、青森県臨床検査技師会の益々の発展と会員の皆様のより一層のご活躍を祈念いたしましてお礼の言葉とさせていただきます。

功劳賞を受賞して

つがる西北五広域連合 鱒ヶ沢病院 番場 隆彦

この度、青森県臨床検査技師会功劳賞を頂き、齋藤会長ならび青臨技会員の皆様には心より御礼申し上げます。令和 3 年度まで 4 年間青臨技理事を務めさせて頂きましたがコロナウィルスの影響で会議も研修会もリモートもしくは Web と様変わりしました。おそらくこの形式は暫く続くと思いますが、昭和生まれにはなんとかついていったというところです。たいして技師会には役に立てませんでしたのご容赦ください。

少し話題がかわりますが、昨今、AI の発達により金融、農業、建設といろいろな分野でできるだけ人手を省く方向へ進んでいくことと思います。検査業務も例外ではないと思います。その意味ではタスクシフトで患者さんに直接かかわるような業務を広げておかないと検査技師業界も将来的に残っていけないかもしれません。その前に地方の若手技師の不足を解消しないと技師会活動も病院業務も立ち行かなくなるような気がするのですが・・・。

世の中全体がいろいろ大変な時期ではありますが、青森県臨床検査技師会の益々の発展と会員皆様のご健勝と活躍を祈願いたしまして、御礼の挨拶とさせていただきます。

奨励賞を受賞して

八戸赤十字病院 阿部 紀恵

この度は、青臨技奨励賞を頂きまして誠にありがとうございました。この場をお借りして齋藤会長はじめ青森県臨床検査技師会や三八支部技師会の皆様、当院検査室スタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。

今回受賞することができましたのは、これまで積極的に技師会活動に参加してきたことが大きいのかなと考えています。就職するまでは技師会活動なるものがあることも知り得ませんでした。いざ飛び込んでみると熱意溢れる先輩方のバイタリティの高さに驚きました。「技師会のお仕事を頼まれたら一度は必ずやってみて。大変だけど楽しいし、必ず自分に返ってくるよ！」新人の頃に何人もの先輩方から頂いたお言葉ですが、そんなに皆が言うならば、と誘われたことはなるべくお断りをせず、とりあえずやってみようという気持ちで取り組んで参りました。

私にとって大切な出来事が2つあります。1つは平成30年度日臨技北日本支部医学検査学会における若手企画に参加したこと。若手企画実行委員は県内の20～30代の技師で構成され、検査技師の働き方や職場でのジェネレーションギャップについて調査を行いました。働き方改革や定年延長&少子化の問題が取り上げられる現代においてなかなかいいところを突いたテーマだったなあ、と当時の実行委員メンバーと褒め合いたいくらい満足のいく内容に仕上がりました。北日本支部学術奨励賞を頂くことができました。共に努力した仲間は大切な友人となり、今後どのような場面で関わっていけるのか今からとても楽しみです。もう1つの出来事は、臨床一般部門の精度管理委員を経て部門長を経験させてもらっていることです。青森県は全国でも活躍されるような一般検査技師が多く、その中でバトンを引き継ぐことには緊張もありました。しかし実際は先輩方が手を差し伸べてフォローしてくださり、心配事よりもやりがいや楽しさを感じるの方が圧倒的に多いです。私自身もこれまで以上に一般検査の魅力にドボンと浸かり、深く潜るようにもっと知りたいという探求心が湧き上がるようになりました。先輩方が伝えたかったお返してこのことか、と日々実感しています。

今後も青臨技の発展に少しでも貢献できるよう精進していくとともに、「一緒にやってみようよ！」と誘える先輩になれるよう努力を重ねていきたいと思っております。どうぞこれからもご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。この度は、誠にありがとうございました。

奨励賞を受賞して

十和田市立中央病院 前山 宏太

この度、青臨技奨励賞を頂き、会員の皆様に厚く御礼申し上げます。私は臨床検査技師になる前、関東で治験コーディネーターや臨床開発モニターとして製薬関連企業に勤務していました。仕事に行き詰まりを感じていたことと、長男という使命感から、28歳で地元十和田にUターンし、現在中央病院で検査技師8年目になります。入職してから現在まで、血液検査、生化学・免疫検査、糖尿病療養指導、NST、術中神経モニタリング、精度管理責任者などの業務に従事してきました。形態学から分析化学、患者指導、神経生理まで兼任できるのは中規模病院ならではのことであり、これまでに機器更新やレイアウト・動線変更、日当直研修計画の作成、ウィルス性肝炎の院内連携、術中モニタリング認定技師の取得など様々な経験をさせて頂きました。青臨技では生物化学分析部門の精度管理委員や部門長を拝命し、昨年は北日本支部の生物化学分析部門研修会を主催させて頂きました。私は大学院の頃、あまり研究成果が出せず、学会発表もできませんでした。地元に戻ってからは自分の興味のある試薬検討をしたり、業務改善の取り組みをまとめたりして、学生の頃できなかった学会発表や論文作成をしておりますが、今思えばそのころの反動があるのかもしれません。今後は、中央病院の技師として引き続き青森県の地域医療に貢献し、また院内および技師会にて後進の育成にも取り組み、青森県の医療界を盛り上げる一助になればと思っております。会員の皆様には引き続き、研修会や県学会、精度管理調査等へのご参加、ご協力何卒よろしく宜しくお願い申し上げます。

伊藤機一賞を受賞して

弘前大学医学部附属病院 石山 雅大

令和4年8月27日(土)、愛知県一宮市で開催されました一般社団法人日本臨床一般検査学会にて、伊藤機一賞を受賞しましたのでご報告します。伊藤機一賞はこれまで私を含め10名の受賞者になりますが、青森県からは坂牛省二氏(第四回受賞)に続き、二人目の授与となります。伊藤機一先生は順天堂大学医学部を卒業後、米国スクリップス記念病院教授や東海大学助教授、神奈川県立衛生短期大学学長などを歴任され、臨床一般検査分野では日本のみならず海外でもご活躍されました。一般検査に関する要職、著書の出版なども数多く、青臨技でも何度かご講演され、青森県にも大変ゆかりの深い先生でいらっしゃいました。

今回の私の受賞理由は、一般検査分野として青臨技一般検査研究班長、日臨技では形態検査部門員(一般検査)・精度管理調査協力委員・髄液検査ワーキンググループ委員・認定一般検査ワーキンググループ試験委員・一般検査技術教本執筆委員などのほか、一般検査以外の日本検査血液学会評議員、日本医療検査科学会評議員として髄液・体腔液分野への協力、学会発表や全国で150回ほどの講演実績、公益活動として青臨技副会長の業績も評価され受賞となったと稲垣勇夫記念会会長よりご報告いただきました。

私自身は小さな病院での生理検査と細菌検査の仕事からのスタートで、その後もほとんどは血液検査と細胞検査を長く勤めており、意外と業務歴として短かった一般検査がなぜか技師会や各学会では私の主軸の業務となった経緯があります。一般検査は三か所目の就職先である弘前市立病院で担当になりましたが、ルーティン業務後に弘前大学医学部附属病院検査部の中田伸一先生のもとに6か月ほど通い基礎から勉強させていただき、同時に健生病院の蟻塚しづ子先生には円柱類、弘前市医師会の長沼孝雄先生のところには細胞の基礎を学びに何度も伺いました。そして何より一人前の技師として私を育てていただいたのは平内中央病院の坂牛省二先生でした。坂牛先生には、とにかく金魚の糞のようにくっ付いて全国の学会、研修会を回って一緒に勉強させていただき本当にお世話になりました。また、いずれの先生とも酒宴も多く、良く語り合ったことも大きな勉強と考えています(笑)。

現在の私は検査業務から離れ、また病院での勤務も残りわずかとなりました。しかしながら日臨技をはじめ、各学会から一般検査に関する業務依頼は引き続きたくさん与えられておりますので、いただいた賞に恥じぬように、引き続き後進のためになるような仕事に邁進してまいりたいと思います。最後になりますが、青臨技関係各位に感謝とともに受賞の報告とさせていただきます。本当にありがとうございました。



第 48 回青森県医学検査学会を終えて

つがる西北五広域連合かなぎ病院 鹿摩 悟

令和 4 年 6 月 19 日（日）青森県医学検査学会をホテルサンルート五所川原にて開催いたしました。今年も、昨年同様にコロナ感染の影響を考慮して web と現地のハイブリット形式で行いました。弘前開催を視察した時は少人数で行われていたので、そのイメージで今年もと思っていましたが実際はなかなか大変なものがありました。まず、スタッフは初めて学会運営に関わる人が多く自分も含めて何から始めたらいいのか分からない状態でした。県技師会副会長の石山さんに御相談したところ、「サイボウズの仲間に入らないといけない」と言われ県技師会運営の連絡ツールとしてサイボウズが使われている事をそこで初めて知りました。そして前回運営された黒石病院さんに連絡して、お忙しい中これから何をすべきかアドバイスを頂き助かりました。実務上、発表要旨集作成、会場設営の準備、web 会社との対応に分けて担当者を決めて進めて行く事とし、発表要旨集は、以前に西北五支部が担当した時と違って日臨技ホームページより学会管理システム運用ガイダンスを利用して作成することになっており、運営委員長の須藤さんは苦労されたと思います。web 会社との対応は実行委員長の花田(嗣)さんに担当して頂き、バックアップデータの収集やオンラインテスト、演者、座長の問い合わせメールの対応など事細かく頑張ってくれました。会場設営はスクリーンを二か所に取り付けて横長の会場にし、なるべく離れて座れるように工夫しました。会場で使用する備品は、予算削減のため県技師会より使用可能ができるものは拝借し、椅子・テーブルなどはハイブリット開催のため来場者数の予測ができず少し多めの用意としました。学会日が近づく頃、総会を開催するにあたり現地進行する議長が必要になり急遽、花田(嗣)さんと実行委員の鳴海(一)さんで対応する事にしましたが、議長役での進行がわからず青臨技会長の齋藤さんにシナリオをお願いして漸く出来そうな感じでした。学会当日は、受付を県事務局のご協力を賜り本当に助かりました。総会も時間的に厳しく簡潔にできるように変更し、それが功を奏して一般演題発表の前に時間を作る事ができ、その間に演者のバックアップデータを演者用 PC に載せる事ができました。日頃お忙しい中、今年的一般演題は 15 題のご協力を頂き、演者の各位皆様、誠にありがとうございました。ランチョンセミナーは「sdLDL-C 検査の有用性について」でしたが、脂質異常症は動脈硬化性疾患につながるものであり今後期待される検査項目の一つであると感じました。特別講演として、弘前大学大学院保健学研究科の渡邊先生に講演をして頂きました。今後、臨床検査技師育成のためには臨地実習指導者の必要性があるとの話題が印象的でした。最後に、学会開催にあたり準備・運営にご協力頂きました県理事・事務局の皆様、実務委員の皆様、支部会員の皆様に心より感謝申し上げます。

【研修会報告】

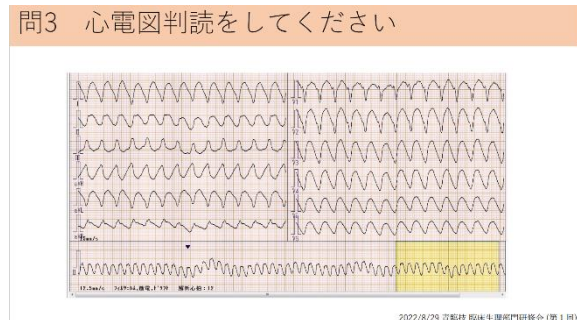
令和 4 年度青臨技第 1 回臨床生理部門研修会報告

弘前大学医学部附属病院検査部 神田 詩歩

令和 4 年 8 月 29 日に青臨技第 1 回臨床生理部門研修会が Web 開催されました。テーマは、『心電図判読と臨床生理部門懇親会』です。

心電図判読では、心電図の読み方を基本から丁寧に講義して頂き、QT 延長症候群、心室頻拍、右胸心についての心電図判読を行いました。

懇親会では、就職 3 年目までの人を主に自己紹介を行いました。コロナ禍で研修会を対面で行うことができなくなり、施設間の情報共有が難しくなりましたが今回の懇親会で、各心電図に遭遇した際の対応の違いや、各施設での後輩育成の方法など多岐にわたる情報共有ができました。



令和4年度 青臨技 第2回 臨床生理部門研修会報告

弘前大学医学部附属病院検査部 赤崎 友美

令和4年9月15日(木)に、青臨技 第2回 臨床生理部門研修会が Web 開催されました。テーマは『心電図判読の極意』であり、1級心電図検定資格(日本不整脈心電学会)を取得されている検査技師を講師にお迎えし開催されました。私は、高望みながらも1級心電図検定資格取得を目指していましたので、ぜひ先人から心電図を判読するコツを会得したく参加しました。

前半は、諏訪赤十字病院の田中 諒先生が「上室性頻拍の心電図判読について～基礎～」にてご講演されました。上室性頻拍である房室結節リエントリー性頻拍(AVNRT)と副伝導路を介する房室回帰性頻拍(AVRT)と心房頻拍(AT)の3つのポイント絞り、その特徴とその判読について教えて頂きました。カテ室やデバイスチェック業務をこなされている田中先生は、生理検査室内にいただけでは拝見できない電気生理学的検査(EPS)の波形や3次元マッピングの画像を提示しながらわかりやすく説明して下さいました。検査技師でも不整脈の治療の現場に携わり、多方面から上室性頻拍を理解できている田中先生の姿に感銘を覚え、頑張り次第では検査技師の職域が広がる可能性にとってもワクワクしました。

後半は、総合病院水戸協同病院の木村 靖子先生が「ST-T 変化の心電図判読について」についてご講演されました。心電図教本のバイブルである「心電図の読み方パーフェクトマニュアル」を執筆された渡辺 重行先生の下で働いてらっしゃる木村先生は、さすが ST・T 変化について造詣が深く、また興味深い症例も提示して下さいましたので、実臨床にぜひ生かしたいと思います。つい見逃して、気にもとめないような ST-T 変化にも注意を払うことの重要性を感じました。今回は、お二方から心電図の極意だけではなく、心電図所見に真剣に向き合う“極意(真摯な姿勢)”を学ばせていただきました。Web 講演ならではの、全国の優秀な検査技師さんの講演を拝聴することができ、青森という地にいながらも刺激を十分に受けました。このような企画で開催して頂きまして本当にありがとうございます。今後の仕事や後進の育成に活かしていきたいです。また、これから期間限定のアーカイブ配信があるということで、画期的な試みをととても楽しみにしています。

令和4年度 青臨技 輸血細胞治療部門研修会報告

八戸赤十字病院 雫石 宏美

令和4年9月23日に行われた青臨技 輸血細胞治療部門研修会に参加しましたので、ご報告いたします。

今回は血液製剤の取り扱いに関する内容でした。三沢市立三沢病院 川村香織技師、青森県立中央病院 目黒冬樹技師、弘前大学医学部付属病院 大和美都技師の3名より、血液製剤取り扱いの実際や困った事例などをご講演いただきました。青森県赤十字血液センター 村上知教先生には、血液センターの視点から製剤取り扱いの注意点をご講演いただきました。血液製剤は特定生物由来製品であり、たくさんの安全対策がとられています。献血時の問診に始まり、採血時の初流血除去、製造過程での白血球除去、放射線照射など、すべて患者さんを輸血副反応から守るためです。私たちは、多くのステップを踏んで製造された血液製剤を適切に保管管理し、必要とする患者さんの元へ届ける義務があります。普段から血液製剤の色調の異常や破損がないか確認していますが、入庫、払い出し、輸血開始前など複数のポイントで外観確認が必要であることを再認識させられました。

血液製剤の取り扱いに関わるトピックスとして「血液搬送装置(ATR)の運用経験」を八戸市立市民病院 大井惇矢技師にご講演いただきました。輸血療法の実施に関する指針には、持ち出した血液はできるだけ早く使用し、60分以内に使用しない場合も輸血部門と同様に自記温度記録計と警報装置が付いた輸血用血液専用の保冷庫中で保存すると記載されています。ATRの導入は、輸血部門から診療科へ製剤運搬の頻度を減らすことができ、不適切な温度管理による廃棄血の削減にも繋がります。とくに緊急を要する場面での運用は有用であると思いました。

Web開催の研修会が増え、より多くの方が参加しやすい環境となっています。その一方で、他施設の技師にちょっとした疑問を聞く機会が減ってしまったように感じます。今回の研修会では他施設の様子を知ることができ、自施設の改善すべきところはないかを考える有意義な時間になりました。

【理事会議事録】

令和4年度第2回理事会議事録

1. 日時：令和4年6月19日(日) 14:30~14:40
2. 場所：五所川原市布屋町25番
ホテルサンルート五所川原 風月の間
3. 出席者：奥沢悦子、吉田泰憲、木村正彦、逆井久美子、高松みどり、小山内誠、鹿摩悟、中村安孝、國分慎、四釜育与、吉岡治彦、石山雅大、齋藤浩治
4. 欠席者：須藤安史、川口裕美、佐藤舞、津嶋里奈、齋藤賢、河村義雄、田村栄子、

定款第5章第32条及び諸規定により、議長に奥沢理事があたり、書記に高松理事が指名され、審議が行われた。

【議題】

1. 令和4、5年度役員、担当について
令和4年度定時総会、第三号議案で承認された理事における令和4、5年度の各役職について審議が行われた。その結果、会長として奥沢理事が推薦され了承された。また各役職についても以下のように決定された。なお、被選任者は就任を承諾した。

役職	氏名	施設
会長	奥沢 悦子	八戸市立市民病院
副会長	吉田 泰憲	青森労災病院
副会長	木村 正彦	弘前大学医学部附属病院
常任理事	須藤 安史	八戸市立市民病院
常任理事	逆井 久美子	八戸赤十字病院
理事	川口 裕美	八戸市医師会検査センター
理事	佐藤 舞	青森県立中央病院
理事	高松 みどり	むつ総合病院
理事	小山内 誠	つがる西北五広域連合 つがる総合病院
理事	津嶋 里奈	青森市民病院
理事	齋藤 賢	あおもり協立病院
理事	鹿摩 悟	つがる西北五広域連合 かなぎ病院
理事	中村 安孝	むつ総合病院
理事	河村 義雄	青森労災病院
理事	國分 慎	十和田市立中央病院
理事	四釜 育与	黒石病院
理事	田村 栄子	株式会社 LSI メディエンス 青森市医師会ラボ
理事	吉岡 治彦	弘前大学大学院保健学研究科
監事	齋藤 浩治	青森市民病院
監事	石山 雅大	弘前大学医学部附属病院

議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。

令和4年度 第3回理事会 議事録

1. 日 時：令和4年7月10日（日）10：00～14：00
2. 場所：青森県観光物産館アスパム（4階 十和田）
青森市安方1丁目1-40 Tel：017-735-5311
3. 出席者：奥沢悦子、吉田泰憲、木村正彦、須藤安史、逆井久美子、川口裕美、佐藤舞、高松みどり、小山内誠、津嶋里奈、齋藤賢、鹿摩悟、中村安孝、河村義雄、國分慎、四釜育与、田村栄子、吉岡治彦、石山雅大
オブザーバー：野坂知加、吉岡拓朗、本田昌樹
欠席者：齋藤浩治

定款第5章第32条及び諸規定により、議長に奥沢会長があたり、書記に齋藤賢理事が指名され、審議が行われた。

【報告事項】

1. 学術部経過報告
吉田学術部長より特になしと報告があった。
2. 公益部経過報告

木村公益部長より特になしと報告があった。

3. 渉外部経過報告

須藤渉外部長より特になしと報告があった。

4. 事務局経過報告

逆井事務局長より 70 周年記念誌についての以下の報告があった。

以前、会誌担当と記念誌担当が同じ支部で大変だったことから、会誌は東青支部が担当し、70 周年記念誌は三八支部が担当することとなった。

5. 奥沢会長からの報告

①日臨技総会について

令和 4 年 6 月 25 日、日臨技総会が開催され、新たな執行体制が決定された。

宮島会長からは、会員数は現在約 7 万人近くいること。臨床検査の求められ方が異なってきたこと。

人口減少社会において臨床検査、検査技師の存在意義を考え、常に進化する体制を作る必要があること等が述べられた。

②タスク・シフト/シェア講習会について

9/11（日）東奥日報新町ビルで開催予定。齋藤（浩） 監事が窓口。

応援の実務員が 1 名不足している。

【議題】

1. 令和 4、5 年度担当について

令和 4 年度総会、第三号議案で承認された理事における令和 4、5 年度の各担当は以下のとおり決定した。

役職	担当	氏名	
会長		奥沢 悦子	八戸市立市民病院
副会長	学術部長	吉田 泰憲	青森労災病院
副会長	公益部長	木村 正彦	弘前大学医学部附属病院
常任理事	渉外部長	須藤 安史	八戸市立市民病院
常任理事	事務局長	逆井久美子	八戸赤十字病院
理事	会計	川口 裕美	八戸市医師会検査センター
理事	事務局補佐（学術）	佐藤 舞	青森県立中央病院
理事	事務局補佐（公益）	高松みどり	むつ総合病院
理事	事務局補佐（渉外・HP）	小山内 誠	つがる総合病院
理事	庶務（組織調査）	津嶋 里奈	青森市民病院
理事	庶務（会報・議事録）	齋藤 賢	あおもり協立病院
理事	学術	中村 安孝	むつ総合病院
理事	学術	鹿摩 悟	かなぎ病院
理事	公益	國分 慎	十和田市立中央病院
理事	公益	四釜 育与	黒石病院
理事	渉外	河村 義雄	青森労災病院
理事	渉外	田村 栄子	株式会社 LSI メディエンス 青森市医師会ラボ
理事	渉外	吉岡 治彦	弘前大学大学院保健学研究所

監事	齋藤 浩治	青森市民病院
監事	石山 雅大	弘前大学医学部附属病院

2. 事務局の業務スリム化について

吉田副会長より以下の提案があった。

- ① 研修会や学会の日臨技への参加登録を個人でお願いする。
 - ・研修会参加登録用マニュアルを作成して HP のトップページに掲載する。
 - ・研修会の案内と共にコードとパスワードを掲載する。
これまでと同様に zoom の最後に表示することも継続する。
 - ・参加登録のマニュアル化は吉田副会長が担当する。
- ② 各支部の研修会は各支部の事務局が日臨技に登録する。
 - ・事務局から各支部の事務局へ連絡し周知させる。
 - ・日臨技への研修会登録方法のマニュアル化は吉田副会長が担当する。
- ③ 永年会員について
 - ・日臨技に所属したまま永年会員になると 12 月に会費の免除の登録を 2 週間の間にやらなければならない。手間がかかっている。
 - ・定款の内容を変更する場合は総会での承認が必要なため、今後の検討課題となった。

3. 青森県医学検査学会について

中村理事より開催日時や場所等の提案があった。

- 1) 日時：令和 5 年 6 月 18 日（日）
- 2) 場所：むつプラザホテル
- 3) 基本的に現地開催で web 配信も行うが、発表者と座長は現地参加を考えている。
- 4) 参加費は無料
- 5) 総会と学会は同日に開催する。
タイムスケジュールは演題数などにもよるが基本は今年度と同じ流れにすることとなった。

4. 会誌の原稿について

- ・チェック体制を変更する。
構成された最終原稿を投稿者が見て承諾されれば確定とする。
- ・論文の査読は最低 2 人で行う。
- ・演題募集の時に会誌に「原稿もご協力お願いします」と記載する。
- ・県学会以外の論文を掲載する場合、見出しを変える必要がある。

5. 精度管理について

学術からテーマを与えてみてはどうかという意見があった。
引き続き今後の検討課題となった。

6. 今後の課題について

県学会を 6 支部で運用継続するのは難しいため、大きな括りで開催してはどうか。という提案があった。
県学会の担当サイクルが早くなることに反対意見が出る可能性もあり、各支部の意見を伺いながら引き続

き検討することとなった。

7. その他

- ・吉田副会長より組織調査ではパソコンの頻度が高いが現在専用のパソコンが無い。組織調査担当者用のパソコンを購入してもよいかという提案があった。

上記の事項について理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。

令和4年度第4回理事会議事録

1. 日時：令和4年9月1日（木）18：00-19：00
2. 出席者：奥沢悦子、吉田泰憲、木村正彦、須藤安史、逆井久美子、川口裕美、佐藤舞、高松みどり、小山内誠、津嶋里奈、中村安孝、河村義雄、國分慎、四釜育与、田村栄子、吉岡治彦、齋藤浩治、石山雅大
3. 欠席者：齋藤賢、鹿摩悟

定款第5章第32条及び諸規定により、議長に奥沢会長があたり、書記に高松理事が指名され、審議が行われた。審議は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により、オンラインで行われた。

【報告事項】

1. 学術部経過報告

吉田学術部長より青臨技精度管理調査と事後の研修会登録について以下の報告があった。

今年度の青臨技精度管理調査の日程は、準備から報告会の開催まで9月～2月の間で実施予定。試薬の発送について現在は、青森市民病院で対応していたが、今後どのようにしていくのかとの提案があった。齋藤（浩）監事より、ある程度の作業スペースと大きめの冷蔵庫が必要となる。今後は事務局がある支部の施設で発送していくということでどうかとの回答があった。8月27日（月）に第1回の臨床生理部門の研修会が実施されたが、参加者60人程度に対し、研修会の自己登録が現時点で16名と少ない。今年度より開始したことなのでまだ浸透していないということも原因と考えられるが、啓発していくにはどうしたらいいかとの提案があった。何か案がある場合はサイボウズに書き込んでもらうこととなった。

2. 公益部経過報告

木村公益部長より高校生心電図検診に関して以下の報告があった。

現状高校生心電図に関してマニュアルが存在していない。全支部共通のものを準備するのかなど各支部と相談しながら作成していきたい。

3. 渉外部経過報告

須藤渉外部長より特になしと報告があった。

4. 事務局経過報告

逆井事務局長より特になしと報告があった。

5. 奥沢会長より報告

①北日本支部学会

一般演題は126題。8月31日に青森県から選出していただいた座長が最終決定した。

学会で座長等の派遣において施設から費用を捻出できない場合、参加費は自己負担だが、交通費等は青臨技にて補助することとした。今後もこのような補助は日臨技の事業に限り補助を行うこととなった。

②災害に関して

昨日の豪雨災害等、日臨技からも災害による被災確認が来ている。災害にあわれた会員に対しては1年間の会費免除の制度がある。現在は全員へのメール配信とサイボウズでの配信で確認を行っている。今後も同様にしていくが、各支部長は支部内の状況を確認し、報告してほしい。

③宮島会長の報道に関して

昨日説明会が開催される予定だったが、延期となった。その後の日程は未定のため、今後詳細が分かり次第報告する。石山監事より、この件に関し技師連盟にも問い合わせているが返答はないとの報告があった。

【議題】

1. ピンクリボンキャンペーン2022への協賛

奥沢会長より今年度も昨年度と同様に協賛金について提案があった。
理事に意見を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

2. 9月11日のタスク・シフト/シェアの開催

齋藤（浩）監事より本日10名のキャンセルがあり、現在46名の参加登録となっている。日臨技から提示されている開催条件では50名以上の参加者が確保できない場合、開催を見送ることとなっている。開催か延期かを決定したいとの提案があった。開催までの期間で人数の確保が難しいこと、新型コロナウイルス感染拡大の影響を考え今回は延期とすることとなった。石山監事より開催人数の50人以下で開催中止というのは地方の技師会にとっては厳しいのではないかと意見があった。今後日臨技に要望を上げることとなった。

3. 臨地実習指導者講習会について

奥沢会長より来年度から講習会に1施設から複数人参加できるようになる。臨地実習の新カリキュラムは2024年度からスタート。現在県内ではファシリテーターとして弘前大学の櫛引さんが講習を修了している。今後新型コロナウイルスの感染状況を見ながら県内で研修会を開催したいと考えているとの報告があった。石山監事より北海道や新潟の学校からも実習について問い合わせが来ている。県内で幅広く受け入れることで、今後の就職にも繋げることができるのではないかと考える。例えば基本の研修は大学病院などの大きい病院で、1-2週間他施設で実習するなど県内の施設で協力してやっていきたいと思っている。奥沢会長より臨地実習指導者の配置が必須となるため青臨技としても支援できる形を考えたいと発言があった。

上記の事項について理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

【その他】

1. 施設管理者会議

新型コロナウイルス感染拡大の影響で数年開催できていなかったが、ZOOMを使用し開催したらどうかとの提案があった。

2. 野球肘検診

齋藤監事より今年度実施予定について説明があった。

10月30日 むつ市

11月26、27日 青森市

12月3、4日 弘前市

12月10日 十和田市

検診に参加している技師がほぼ固定のメンバーとなっている。通常エコーを実施していない技師でも十分に対応可能なので、今後は参加技師を増やしていきたい。

上記の事項について理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。

令和4年度第5回理事会 議事録

1. 日時：令和4年10月3日（月）18：00-19：30
2. 出席者：奥沢悦子、吉田泰憲、木村正彦、須藤安史、逆井久美子、川口裕美、佐藤舞、高松みどり、小山内誠、津嶋里奈、齋藤賢、鹿摩悟、中村安孝、河村義雄、國分慎、四釜育与、田村栄子、吉岡治彦、齋藤浩治、石山雅大
3. 欠席者：なし

定款第5章第32条及び諸規定により、議長に奥沢会長があたり、書記に齋藤賢理事が指名され、審議が行われた。審議は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により、オンラインで行われた。

【報告事項】

1. 学術部経過報告

吉田学術部長より青臨技精度管理調査について以下の報告があった。

Google フォームを作成し案内文と精度管理の試料に添付する説明文書も作成した。理事会で確認後、施設の連絡責任者へ奥沢会長の名前をもってメールで配信する予定。申し込みの期日は10/18（火）17時までだが予備日を三日間設けて10/21（金）を最終締め切りとする。11/5（土）に青森市民病院の場所を借りて試料を準備して発送する予定。

2. 公益部経過報告

木村公益部長より高校生心電図検診に関して以下の報告があった。

尾上総合高校は対象の生徒が前の学校で実施していたため中止となり、10/1は北斗高校だけ実施した。

齋藤（浩）監事より野球肘検診について以下の報告があった。

まだ技師を募集している状況。締め切りまで期間があるが弘前、十和田が現時点で2人と少ない。

3. 渉外部経過報告

須藤渉外部長より特になしと報告があった。

4. 事務局経過報告

逆井事務局長より特になしと報告があった。

5. 奥沢会長より報告

①第 72 回日本医学検査学会について

2023/5/20 (土)・21 (日) 群馬で開催される。

②中部四国学会での赤字について

参加人数が少なかったことや Web 開催で経費がかさんでしまったことから赤字となってしまった。計画の段階で参加人数が少ないことが予想される場合は執行理事に相談してほしいとのこと。

③政策渉外関連事項等における現状把握のための調査協力施設の選定依頼について

10/18 までに県内から 4 施設選定しなければならない。

④共済申請について

8 月の豪雨災害による被災の届け出が 1 件あった。全国では別の案件で 2 件あった。

⑤品質保証認証 (生理部門含む) 10 部門について

256 施設中 240 施設が合格した。青森県内では十和田市立中央病院、青森労災病院、村上病院、八戸市民病院が認証されている。来年は 2~3 月に申請の受付が始まる。

⑥宮島会長の報道に関して

宮島会長からのビデオレターを配信することとなった。

9/28 より日臨技の HP に掲載している。

⑦タスク・シフト/シェアに関して

予定参加人数 50 名に達せず開催不可に関して、人数 50 制限枠の見直しを日臨技理事会にて執行理事に提案した。日臨技事務局より、採算の関係で 50 人をお願いしたい。但し、今後県をまたいでの開催も許可する方向で考えているとの回答があった。

⑧施設代表者会議について

9/21 (水) に開催した。主な内容は、地域医療体制確保加算の説明、タスク・シフト/シェア延期の件、北日本支部学会座長推薦の御礼、お知らせ伝達方法について (一斉メールと青臨技 HP への誘導)、精度管理および青臨技会誌発行に向けて。

タスク・シフト/シェアに関して齋藤 (浩) 監事より以下の報告があった。

会場と先生の都合を調整し、今年度は 12/25 (日) に開催する。延期となった 9/11 に申し込んだ人を最優先で受付し、足りない分を募集する方向。前日の 12/24 (土) に机のセッティングなど細かい設定をする。

6. 青臨技会誌経過報告

現在論文の投稿は締め切りを終えており、合計 9 編になる予定。

査読は 2 名 (学術担当と専門分野に詳しい方) で行う。査読後に修正も含めご本人へ返す。その後修正して提出されたものをもう一度査読し、ご本人へ返す。昨年と同様に仮の印刷の状態再度ご本人に確認してもらおう予定。また、支部だよりには去年の理事の名前が載るが、古い情報になってしまうため今年の各

支部の理事の名前も載せてはどうかという提案があった。
理事に了承を求めたところ、多数の出席者が異議なく了承された。

【議題】

1. 北日本学会等での、交通費・宿泊費支給に関して
座長やパネリスト、シンポジウムを頼まれている方の交通費や宿泊費の支給に関して認識を統一したいとの提案があった。日臨技では国家公務員の規定に準ずるとなっている。旅費規定に理事会の承認を得て臨機応変に対応するという一文を入れてはどうかという意見や、細かく変更するよりも理事会の承認を得るとした方がよいのではないかという意見が出たため、逆井事務局長の方で文面を考えて再度提案することとなった。
2. Zoom のパスワード管理について
 - ・Zoom の運用は以下のように行う
 - ①部門長・県理事が研修会を開催する場合
パスワード管理者へ問い合わせし、Zoom への登録や当日のホストは自身で行う。
 - ②部門員が研修会を開催する場合
部門員はまず支部理事へ研修会申請をする。支部理事は支部長にパスワード問い合わせを依頼、依頼を受けた支部長はパスワード管理者へ問い合わせし、通知されたパスワードを支部理事へ通知する。研修会当日は支部理事がホストとなって部門員を補助する。
 - ・マニュアルは申請書のところに載せる。
3. 政策渉外関連事項等における現状把握のための調査協力施設の選定について
審議の結果以下の施設となった。
 - ・大病院（500 床以上）：八戸市立市民病院
 - ・中病院 1（200 床以上 500 床未満）：十和田市立中央病院（検討中）
 - ・中病院 2（100 床以上 200 床未満）：当てはまる施設に限られることが予想されるため
奥沢会長が調べることとなった。
 - ・小病院（100 床未満）：かなぎ病院
4. 石山監事の伊藤機一賞受賞について
奥沢会長より受賞画像を青臨技の HP に掲載したいという提案があった。
理事に了承を求めたところ、多数の出席者が異議なく了承された。
上記の事項について理事に了承を求めたところ、多数の出席者が異議なく了承された。

【その他】

1. ピンクリボンキャンペーン 2022 について
協賛の承諾は連絡済み。振込用紙が来たら会計へ送る。
2. 災害時の申請に関して
逆井事務局長より日臨技では会費の減免申請書を提出すると会費や研修会の費用等が免除になる規定がある。青臨技では規定が無いため、今後のため規定を作るのかどうか、今回はどう対応するか審議したいという提案があった。

会計事務取扱規定を確認したところ、会費減免の特例に「会長は会員に特別な理由があると認められる場合は会費を減免することができる」という文言があったため、これに沿って災害時に対応することとなった。今回豪雨災害に遭われた方は会費を減免することとし、今年度の会費を返金するか来年度の会費を免除するかは日臨技の対応を調べてから決定することとなった。

3. 賛助会員の状況について

現在 24 件受付対応しており、募集は 11 月末までとしている。

4. 認知症に関する取り組みについて

青臨技の HP をオレンジ色にする取り組みが 9 月で終了したため、10 月から元の色へ戻すこととなった。

5. 会報について

奥沢会長より第 48 回青森県医学検査学会の学会長である鹿摩理事へ学会を終えての文章作成依頼があった。

6. 名誉会員について

奥沢会長より川村多蔵さんと山崎正夫さんを名誉会員に推薦したいという提案があった。理事に了承を求めたところ、多数の出席者が異議なく了承された。

7. 臨地実習について

石山監事より現在北海道に技師の養成校が 6 校あるが実習先に困っている。青森県から進学した学生もいるため、実習生の受け入れは就職にも繋がると思っている。皆で頑張っていきたいとの報告があった。

8. 70 周年記念誌について

60 周年記念誌の内容を参考に考えていく。

9. 公文書の送付方法について

委嘱状等の公文書は基本的に支部長や部門長を通してすべてメール対応でよいかという提案があった。支部長や支部の事務局長は会員メールアドレスを把握していないため、再度検討することとなった。

上記の事項について理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。